

一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト

2026年度助成企画募集のご案内

公募助成オーガニックシフト部門「ネオニコチノイド系農薬問題プログラム」

お米から果物など幅広い農産物に用いられ、シロアリ駆除剤や家庭用殺虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいる浸透性殺虫剤（ネオニコチノイドおよびフィプロニル）——。近年の急速な研究の進展により、環境中での持続的な慢性曝露による無脊椎動物への時間累積的毒性や、食物連鎖を通じた漁業への脅威などが明らかになりつつあります。世界の科学者コミュニティからは、生態系と生物多様性全体を脅かすことへの警鐘が鳴らされるだけでなく、ヒトの母体から胎児への移行や発達神経毒性を示す研究成果も蓄積されつつあります。

本助成は、予防原則を踏まえて、製薬メーカーの意向や現行の行政判断に左右されない独立の立場からネオニコチノイド系化合物の影響を検証する「調査・研究」活動、浸透性殺虫剤の問題点や最新の研究成果を広く共有する「広報・社会訴求」活動、浸透性殺虫剤を使わないサプライチェーンの確立をめざす「市場“緑化”」活動、国や地方の立法・行政機関に汚染実態調査や規制強化を促す「政策提言」活動を支援します。国の農薬再評価とオーガニック推進が進むいま、確実な規制強化へつながる成果を期待しています。ふるってご応募ください！（応募要項など申請書類一式は下記リンクよりどうぞ）

<https://www.actbeyondtrust.org/info/21821/>

応募資格：ネオニコチノイド系農薬（およびフィプロニル）に関する問題提起や、使用の削減ないし中止に取り組む個人および団体（ボランティアグループ、NPO／NGO、公益法人、研究機関、生産者など。地域、法人格、活動実績は不問）

助成分野と金額：「調査・研究」「広報・社会訴求」「市場“緑化”」「政策提言」分野（いずれかを選択）

1 企画あたりの助成額：上限 100 万円

※2 部門以上にまたがる案件は、1 部門を超えるごとに 1 部門あたり 50 万円を加算

助成対象期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日の間に実施される活動

応募受付期間：2026 年 2 月 8 日（日）〆切

問い合わせ先： 公益社団法人アクト・ビヨンド・トラスト 助成係

電話：070-6551-9266（10:00～19:00）

Email：grant@actbeyondtrust.org

<http://www.actbeyondtrust.org>

<https://www.facebook.com/actbeyondtrust>

【12/27～1/5 は年末年始休業】



一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストは、自然環境と人間生活の調和を目的とした市民や NPO・NGO の活動を支援する、独立した民間基金です。問題解決のための具体的・効果的・創造的なアクションを重視し、資金援助、コンサルティング、技術および人材提供、トレーニングなどを行なっています。詳しくは上記 web サイトや Facebook ページをご覧ください。

これまでの企画から

2025 年度に採択された企画例をご紹介します。

これまでに実施された企画は、アクト・ビヨンド・トラスト web サイトの「公募助成(ネオニコチノイド系農薬問題)」をご参考ください。2024 年度までの各助成対象企画について報告書をご覧いただけるほか、同サイトの「助成先活動情報」では、2025 年度助成対象企画の活動状況をリアルタイムで取り上げています。 <https://www.actbeyondtrust.org/program/neonicotinoid/>

■ 霞ヶ浦（北浦）湖内のネオニコチノイド系農薬濃度の現状把握ならびに当該農薬が北浦のオオユスリカ幼虫の個体数密度におよぼす影響に関する研究（調査・研究）

霞ヶ浦（北浦）の湖底ではこれまで底生動物の中で最優占種であったオオユスリカ幼虫が 2019 年以降激減しているが理由は不明である。本研究では北浦の湖内やその流入河川において、湖水・河川水・底質を採取し、現在の北浦におけるネオニコチノイド系農薬濃度の現状を把握する。さらに当該農薬の濃度勾配を設けて幼虫を飼育し、オオユスリカ幼虫の生存率・羽化数等に及ぼすネオニコチノイド系農薬の影響を明らかにする室内毒性試験をする。

■ ミカン園土壤中の残留農薬と生物の調査及び啓発用冊子の作成（調査・研究）

これまで浜名湖と佐鳴湖流域の河川、地下水、ミカンの果実と葉のネオニコの調査を実施し、ミカン園を流れる河川のネオニコ濃度が、平時でも 35ng/L（慢性毒性）以上、出水時には 200ng/L（急性毒性）以上もあることが判明した。出水時には土壤が河川に流出し濃度が高くなり、土壤中の残留ネオニコ濃度が高いことが推察できる。今年度はミカン園の土壤中のネオニコ濃度、対照区として 8 割減農薬ミカン園を調査する。野菜畑にネオニコを散布し土壤中の残留ネオニコを調査しミカン園と比較する。ミカン園の昆虫、土壤動物の調査も行う。これまでの調査結果をもとに啓発用冊子を作成し啓発活動を行う。

■ 秋田におけるネオニコ汚染実態の定量的解明と環境・食の安全基盤構築の県民的展開（調査・研究、広報・社会訴求、市場“緑化”）

2023 年 8 月、秋田市の水道水から EU 基準の 30 倍超のネオニコチノイド系農薬ジノテフランと同 5 倍超のスルホキサフルが同時検出され衝撃が走った。この調査を主導した「県民の会」の 2024 年度の活動により、県民自ら流域規模でのネオニコチノイド系農薬汚染の実態を把握し自覚しつつある。再申請で活動をより強化し、県民のネオニコ暴露量を解明し、対策の必要・緊急性を周知する。最新結果を基に学習会や集いを引き続き県内各地で実施し、環境・農業・食の実態と課題を共有し、安全で豊かな環境と食をつくる取り組みを強力に推進する。

■ 「世界自然遺産の島」の水田における各種浸透性農薬の検出状況とその使用実態の解明（調査・研究）

世界自然遺産登録地の西表島を含む八重山地域の水田において、ジノテフランをはじめとしたネオニコチノイド系農薬が広く使われるようになってきており、その環境影響の実態把握が急務となっている。この目的には、近年発展の著しい、コップ 1 杯の水からどんな生き物が生息しているのかを知ることのできる環境 DNA 分析技術が有用となりうる。そこで私は、本助成事業を活用し、本地域のネオニコ剤使用水田と殺虫剤不使用水田の水を環境 DNA 分析に供することにより、ネオニコ剤が生物多様性に及ぼす影響の環境 DNA による評価を試みる。